

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	社会学部
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. ST比、年齢構成、性別比率、外国人教員数などの観点から教員組織編制を構想し、定期的に検証する	→ 「将来の教員構成を考える委員会」の設置	B	B	B	/	/
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

☆	<p>目標1</p> <p>昨年度と比較して、ST比は51.2%で4.6ポイント減少した。女性教員の比率は、24%で維持することができた。必須科目に対する専任教員の比率をみると、87.2%と9割に近い高い比率である。専任教員の担当時間数は、約13時間である。また、本学出身の専任教員の割合は6%と過去5年間では最も低い値である。将来に向けた社会学部の検討については、「将来構想委員会」を4月付けで設置し、教員組織を含めて検討することとなった。</p>
	備考

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【社会学部】		単位	2008	2009	2010	2011	2012	備考	
指標1	専任教員1人あたりの学生数 (ST比)	人	71.7	52.2	56.8	51.2	53.4	学部	
指標2	必修科目および選択必修科目に対する専任比率	専門教育	%	90.4	90.2	90.3	87.2	87.8	学部、センター、研究所
		教養教育	%	31.4	31.2	21.9	31.8	29.1	
指標3	教員組織における女性教員の比率	%	15.8	20.4	22.9	24.0	24.0	学部、センター、研究所	
指標4	本学出身の専任教員の構成比率	%	13.2	7.4	7.8	14.8	6.0	学部、センター、研究所	
指標5	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	12.6	13.1	12.4	13.8	13.5	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	15.1	11.5	11.5	13.6	13.3	
		講師	時間	-	8.0	-	-	-	
		助教	時間	-	8.8	8.6	11.4	6.9	